

エレクトロニクスソサイエティ和文論文誌 500号記念論文特集の発行にあたって



エレクトロニクスソサイエティ和文論文誌
500号記念論文特集編集委員会

委員長 東盛裕一

エレクトロニクスソサイエティ和文論文誌の生い立ち
は、41年前の1968年に、電子情報通信学会の前身である電子通信学会の会誌から分離・発行された論文誌にさかのぼる。1968年当時は全分冊共通の編集委員会が発足し、初代の編集委員長は当時会誌編集長を担当されていた小島哲氏が併せて務められた。C分冊として独立委員会になったのは1985年からで、エレクトロニクス研究グループ論文委員会として設置され、編集委員長（1985～1989年は“主査”）は生駒俊明氏が務められた。それ以降はおおむね2年の任期で歴代の編集委員長が務められている。現在のソサイエティ制に移行したのは1995年からで、荒川泰彦氏（東京大学・教授）、横山直樹氏（富士通研究所・フェロー）らが編集委員長を務められ、今日に至っている。

本特集号は、その41年間に発行された論文誌が500号になることを記念して、これまでに本論文誌が果たしてきた日本のエレクトロニクス研究開発への貢献、そして先進技術の現状と今後の展望について、エレクトロニクスソサイエティの各研究専門委員会の分野ごとに著名な業績を上げられた方々に巻頭言、招待論文のご執筆をお願いした。また本特集号の構成は電子情報通信学会の大会と同じ技術分野で編集し、幅広い分野のエレクトロニクスソサイエティ会員に興味をもって頂けるものと確信している。また第1号の復刻版も同包したので1968年当時の先進技術との違いも実感して頂きたい。

最後に、本特集号の発刊にあたり、貴重な成果を寄稿頂いた執筆者の皆様、スケジュールを厳守しながら熱心に校閲頂いた校閲者の皆様、編集企画並びに研究専門委員会との調整に尽力された500号記念特集号編集委員会の皆様並びに編集幹事・青木雄一様、そして編集取りまとめにご尽力頂いた学会事務局・二階堂紀子様深く御礼申し上げます。

歴代の和文論文誌委員長（敬称略）

[全分冊共通]

1968年1月～ 小島哲
1968年7月～ 喜安善市
1972年10月～ 川上正光
1974年6月～ 西卷正郎
1978年5月～ 染谷勲
1981年5月～ 中込雪男
1984年4月～ 宇都宮敏男

[C分冊独立委員会設置]

1985年5月～ 生駒俊明
1987年5月～ 植木敦史
1989年5月～ 荒井英輔
1991年5月～ 石原宏
1993年5月～ 茅根直樹

[ソサイエティ制移行]

1995年5月～ 荒川泰彦
1997年5月～ 横山直樹
1998年5月～ 谷口研二
2000年5月～ 谷内利明
2002年5月～ 和保孝夫
2004年5月～ 蓮見裕二
2006年5月～ 小口喜美夫
2008年5月～ 東盛裕一

とうもり ひろかず
東盛 裕一（正員：シニア会員） 1986東工大・電子物理工学・博士課程了。工博。同年、日本電信電話株式会社、厚木研究所配属、波長可変光源、光半導体機能素子、半導体集積回路等の研究開発・実用化に従事。1999研究開発リーダー、2007より研究開発部長。その間コロラド大学客員研究員1988、NTTエレクトロニクス出向（1994～1996、2005～2006）。本会エレクトロニクスソサイエティ賞（2004）、論文賞（1987、2004）等受賞。レーザ量子エレクトロニクス研究専門委員会（LQE）委員長（2005）、LEOS東京チャプター幹事（2006～2007）、和文論文誌C編集委員長（2008～）、集積光デバイスと応用技術時限研究専門委員会（IPDA）委員長（2009～）、LEOS Senior Member。

エレクトロニクスソサイエティ
和文論文誌500号記念論文特集
編集委員会

委員 長 東 盛 裕 一

幹 事 青 木 雄 一

委 員

天 野 主 税 ・ 荒 川 太 郎 ・ 飯 塚 紀 夫

梶 井 博 武 ・ 黒 田 道 子 ・ 古 神 義 則

近 藤 昌 晴 ・ 齊 藤 和 夫 ・ 佐 藤 弘 人

下 沢 充 弘 ・ 末 光 哲 也 ・ 関 根 徳 彦

辻 幹 男 ・ 名 倉 徹 ・ 野 毛 悟

日 暮 栄 治 ・ 森 井 真 喜 人 ・ 吉 田 清

若 原 昭 浩

エレクトロニクスソサイエティ和文論文誌500号記念論文特集
編集委員会メンバーを上記の通り記載致します。